

民主化闘争情報

No. 958

2017年8月4日

発行 日本鉄道労働組合連合会
(JR連合)

JR北海道の最大労組である北鉄労（JR北海道労組）は6月11～12日札幌市内にて定期大会を開催した模様。北鉄労の機関紙「ひびき（7月7日付481号）」によると、大会議案で「『統制委員会の答申』を満場一致で可決」とあり、組合員の氏名をフルネームで掲載し、「除名処分」を行った旨の内容であった。

見せしめ的な個人の徹底追及と除名処分か!?

北鉄労は公安警察に知られたらマズイことがあるのか!?

除名処分を行った旨の内容は次のとおり。2016年、札幌地方本部ならびに札幌支部より、札幌運転分会に所属するK（機関紙ではフルネーム掲載）組合員に対する制裁が中央執行委員会へ申請された。中央執行委員会は規約に基づき昨年の大会で統制委員会の設置を提起し、承認された。統制委員会は関係者からの聞き取り調査をはじめこれまで10回の委員会を開催し、調査により判明した事実関係の確認と、統制処分の可否について審議し、審議結果を中央委員会および今大会で答申され、K組合員の「除名処分」を満場一致で決定したと確認された。

また、笹森書記長は総括答弁の中で、統制委員会の答申が全会一致で確認されたことについて、「未然に組織の中に潜む組織破壊分子を発見し、それらを許さないたたかいをこの一年間追及してきました」と、組織をあげて、見せしめとも言えるような「除名処分」を行ったことの正当性を語った模様。

定期大会に向けた「職場討議資料」となった「ひびき（5月24日付480号）」に掲載された「運動の基調」では、「公安警察によるスパイ工作や一切の弾圧・介入、誹謗中傷を許さず、速やかな報告・連絡・調査体制の確立をはかります。また、組織整備・組織総点検を徹底します」との記載がある。今回のK氏への「除名処分」にも関連があるものと思われる。

組織の引き締め躍起!?! 組合員同士を監視・密告させるのか!?!

2月26日の読売新聞朝刊（北海道版）での菅官房長官の“JR北海道の労働組合が強い影響力を及ぼしている”との認識を示す報道、また、5月23日の北海道新聞朝刊における“強い組合”と指摘する報道もあるように最大労組である北鉄労の異常性がクローズアップされている。今回、その北鉄労は、組合員同士を監視させ、何かあれば密告させるような異常な組織運営を行っていることを自らが明らかにしたと言える。

非民主的な組合に見切りをつけてJR連合へ結集しよう!